

# 胎盤早期剝離の臨牀, 特に家系調査

## The Hereditary Investigation on the Premature Separation of the Normally Implanted Placenta

醫學博士 庄 司 忠 Tadashi Shoji

胎盤早期剝離の原因としては(1) 機械的作用, 即ち外傷によると(2) 子宮壁, 胎盤の病的變化, 殊に其血管系統の疾病に因るとの2者に大別せらる。殊に後者は妊娠腎及び慢性腎炎を素地として發生する場合多く, 之に關する報告例は枚舉に違がない(Winter u. Fehling. 盤瀨, 内藤, 吉川, 田北, 町田, 佐久間, 藤井). 而も未だ其家系的研究即ち體質遺傳學的觀察を爲せるものは少い様である。

偶々余は子癇の遺傳性を調査中之と姉妹疾患と考えられる早期剝離(以下早剝と略稱す)の數例に遭遇し, これが體質遺傳學的關係即ち其血族に如何なる疾患が集積し易いかを調査せるに本人に妊娠中毒症を経過せるもの多きのみならず, 家系的には腎臟疾患を類簇し易いことを認めたので茲に簡単に之を報告せんとす。

觀察材料としては昭和 16 年以降當院に於て胎盤早期剝離と診斷し且つ余の施術を受け確實なるもののみを選び本人並に其血族の體質歴調査を實施した。

### 調査成績

#### I 實母に妊娠腎を見た早剝の家系

患者(第 1 例). 現在 39 歳(第 1 回妊娠腎, 第 7

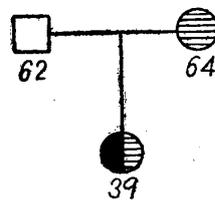
- |    |   |         |   |      |
|----|---|---------|---|------|
| 符号 | ● | 妊娠腎     | ⊕ | 妊娠浮腫 |
| ●  | ● | 早剝, 妊娠腎 | ⊕ | 腎臟病  |
| ●  | ○ | 早剝, ツワリ | ⊙ | ツワリ  |
|    | □ | 毒麻疹(男女) |   |      |

回目に早剝を起す)

もと中肉中背だつたが最近では肥えた。初潮 14 歳

3 月, 結婚 21 歳, 8 人の兒を産む。妊娠時ツワリは殆んど無いと言つてよい位軽い。初妊(23 歳)の際後半期に顔や下肢がひどく腫れ妊娠腎と言われ醫治を受けたことがある。第 2 兒以後正常産であつたが, 第 7 兒の時突然早剝を起し死産した。其時の模様は妊娠末期に下肢が少し腫れており, 尿蛋白陽性との事だつた。分娩豫定日前 1 週間汽車で 3 時間半乗つて田舎へ行つた。所が其晩陣痛が起り非常に痛んだ。そして分娩は自然に終了したが大出血を起し蒲團や疊まで通す位だつた。田舎

第 1 例



の事とて名醫ではないが招いたら早剝と言われ澤山の注射を打つて生命をとりとめた。産後百日餘も貧血が續き顔色が悪かつた。

**家系の特徴** 同胞 5 人, 結婚し妊娠する様な姉妹は未だない。兩親 父は 62 歳, 母は 64 歳, 妊娠時ツワリは軽い。最初の頃は腎炎を患つた事はなかつたが, 第 9 回目の妊娠時重い妊娠腎を患つた由。伯叔母は無い。

#### II 父系に腎臟病を見た者が 2 家系ある。其内 (イ) 伯母と姉に腎臟疾患を見た早剝家系

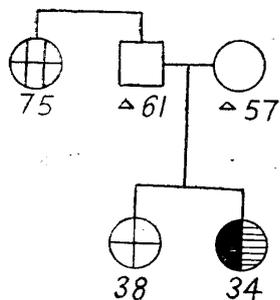
患者(第 2 例). 34 歳(第 1 回妊娠腎あり, 第 3 回目に早剝を起す)。

中肉中背, 普通よりは稍々神經質の婦人であるが, バス, 自動車には酔わぬ。霜焼は出來易い。初潮 16 歳, 月經痛はない。結婚 24 歳, 第 1 回妊

娠時4~5カ月頃に食不振、悪心が1カ月位あり、續いて下肢の浮腫が起り末期にはひどく、押せばへこむ程度になり、眼がカスミ醫師から蛋白尿性網膜炎と言われた。然し産後にはすぐ治つた。

第2回目は4カ月で流産、第3回目はツワリも無く、浮腫も軽かつたが5及び8カ月に不正出血が起り、醫治を受けた。所が分娩豫定日に差しかかり突然凝血を交えた大出血を起し、自宅に産科専門醫を招聘し穿顱術により出産した。胎盤の三分の一部に早期剝離面あり凝血を附着す。

第2例



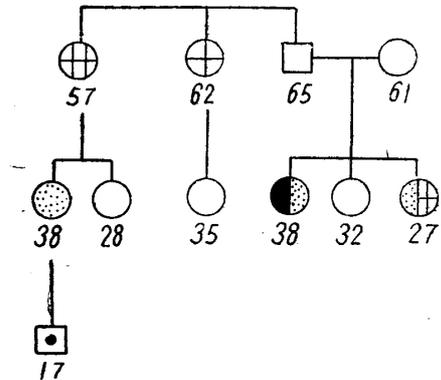
**家系の特徴** (これは姉と伯母に腎臓病あり) 同胞8名、22歳の妹は最近結婚したばかりで舉兒がない。38歳の姉が初婚の時24歳で妊娠し、其時ツワリは軽かつたが、末期に下肢がひどく腫れ嘔吐が激しかつた(妊娠腎或は妊娠浮腫?)。なにぶん14年~15年前の事でハッキリ覚えて居ないが田舎醫者に脚氣と言われた様に思う。子供は生れて3日目に死亡、本人はひどい産褥熱を患い1カ月間入院加療を要し、其後子供に恵まれない。其他の兄弟は皆男性。兩親共に丈夫であつたが父は60歳頃より心臓病にかかり61歳で死亡、母は57歳の時不慮の死を遂げる。

**伯父、伯母** 母系に伯母1名あるも舉兒がない。父系の伯母(75歳)は6兒がある。妊娠時ツワリは殆んど無いが、6回目の妊娠時下肢が軽く腫れる。10年前より腎臓病が出て醫治を受けて居る。

**(口) 患者(第3例)** 38歳、婦人としては肥え地で、10年前胃痙攣發作が2回あつた。バス、自動車には酔う。初潮16歳の夏、結婚20歳、5兒がある。妊娠時ツワリは毎回可成りひどく、ムカムカは満月迄續き、毎食後嘔吐す。妊娠末期に浮

腫はない。所が第5回目の末期に突然早剝を起し、内外出血激しく余の腹式帝王切開術により辛うじて生命を保持する事が出来た。

第3例



**家系の特徴** (妹にツワリ及び妊娠浮腫あり、伯母の1人に妊娠浮腫、他の伯母に急性腎炎を患つた者がある)。同胞5名中妹2名あり、32歳の妹は2兒あるもツワリは軽く、妊娠腎も無い。27歳の妹は初回妊娠時ツワリは可成りひどく悪心、嘔吐1カ月間續き羸瘦し、妊娠末期に下肢が浮腫した。

**兩親** 父(65歳)に喘息あり。母(61歳)は妊娠時軽いツワリを患い、末期に下肢が軽く腫れた由。

父系の伯母(62歳)に2兒がある。妊娠時ツワリは殆んどないが、末期に下肢が相當ひどく腫れる(妊娠浮腫)、然し田舎の事とて醫治を受けた事はない。

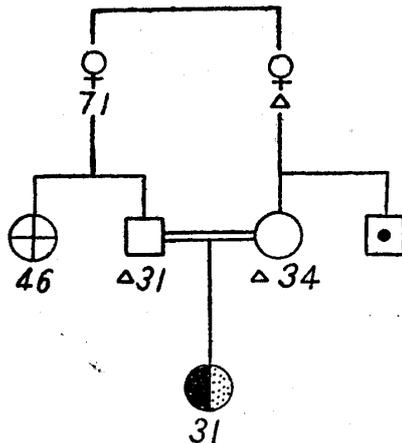
他の伯母57歳は婦人としては肥え地で、神経質の方、喘息がある。20歳の頃感冒にかかり急性腎炎を起し醫治を受けた事がある。第9回目の妊娠時下肢が腫れた。

### III 父系に妊娠浮腫を見た早剝家系

**患者(第4例)** 31歳、(第1回ツワリ、第3回早剝を起す) 短軀神経質の方、バス、自動車には酔わぬ、初潮17歳、第1回妊娠時にツワリはひどく、食不振、悪心は3カ月、嘔吐は2カ月間續き、遂に吐血する始末であつた。第2回以後は軽い。妊娠末期に浮腫もない。今回の妊娠時浮腫はなかつたが分娩豫定日を超過すること2週間、10月19日午前10時頃大便をさすため子供を抱えたら、未だ子宮口開大せざるに突然大出血を起し、余の診を

乞えるに早剝の徴候顯著なるを以て直ちに附近の醫院を借りて腹膜外帝王切開術を實施し、母兒の安泰を得た(手術所見としては特に子宮腔内出血、腹腔内溢血、凝血の胎盤への附着等多量あり)爾後の経過は良好である。

第4例



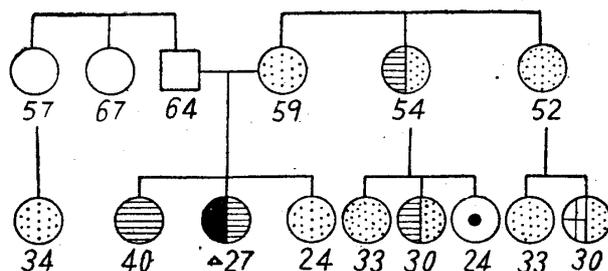
**家系の特徴** 両親は従兄弟結婚である。父は31歳外傷死。母は34歳、産後から起つた慢性腹膜炎で死亡、同胞4名、内2名夭死、1名は25歳の男子。

父系の伯母、46歳 是迄2回流産し、43歳の時初めて立派な女兒を産む事が出来た。ツワリは殆んど無かつたが後半期に下肢がひどく腫れ、押せば凹む程であつた。

**IV 同胞及び母系の伯母や娘に妊娠腎ありし早剝家系**

**患者(第5例)** 平素妊娠腎及び静脈瘤等あり、若い時は肥えて居たが2兒を産んでからのち瘦せる。稍と神経質で、バス、自動車に酔う。妊娠時ツワリは餘りなかつた模様であるが、末期に浮腫

第5例



あり、下肢に静脈瘤が澤山出て居た。第3回目が双胎で分娩時に早剝を起し、内出血の爲死亡す(挽出せる胎盤には凝血多量附着す一拙著、受胎調節の知識、95頁報告)。

**家系の特徴** 同胞10名、姉(40歳)に5兒あり、妊娠時ツワリは軽い。第4兒妊娠中浮腫、蛋白尿起り、7カ月に人工早産す。妹(24歳)1兒あり、妊娠時ツワリはひどく、悪心、嘔吐1カ月半も續き寝たり起きたりであつた。末期に浮腫はない。

**両親** 父は64歳、健在、母は59歳、ツワリは強い方である。10回お産をしたが妊娠末期に浮腫はない。

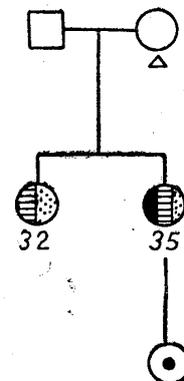
**伯叔母** 父系の伯母2名(67, 57歳)共に舉兒あるもツワリ、浮腫等なし。母系の叔母2名、内1名(54歳)に6兒がある。毎回妊娠時ツワリはひどく、食不振、悪心、嘔吐2~3カ月間も續き羸瘦す。又妊娠末期に多くは、9カ月頃に下肢は角力とりの如くひどく腫れ、腎臓病と言われた事もある。

他の叔母(52歳)も亦6兒があり、毎回妊娠時ツワリはひどく、悪心、嘔吐の爲寝たり起きたりである。下肢は妊娠末期に軽く腫れる。兩叔母の娘は共にツワリがひどい。又何れも妊娠末期に下肢が軽く腫れたと云い、妊娠腎や急性腎炎の経験者も居る。

**V 同胞に妊娠腎ありし早剝家系**

**患者(第6例)** 現在35歳、中肉中背の婦人、バス、自動車に酔わぬ。初潮16歳7月、結婚21歳、

第6例



5回妊娠する。毎回ツワリはひどく悪心、嘔吐の爲就床、羸瘦する程である。又4回目の妊娠時下肢がひどく腫れ妊娠腎と言われ人工早産術を餘儀

なくす。今回の妊娠は9カ月に至り左眼がかすむので保健所で診て貰つたら、腎臓炎は無いが血圧が高いと言われた。1月25日より腹痛、出血、凝血等排出の爲1月27日當院に來り早剝の診断のもとに腹式帝王切開術を受ける。

**家系の特徴** 父は健在、母は4年前卒中で死亡、姉(32歳)に2兒がある。第1回の妊娠時ツワリは可成りひどかつた模様であるが、其後は軽い。尙又妊娠末期に下肢が軽く腫れ、醫者から腎臓病と云われた。

### 要 約

以上早剝6例の體質並に家族歴を調査し、次の結果を見た。

(1) 曾て本人に妊娠腎があつたと思われるものが4名ある。(2) 實母が妊娠腎を患つたもの1例、同胞に妊娠腎或はひどい妊娠浮腫を見たものが3家系あつた。(3) 父系の伯母に腎臓炎、妊娠浮腫を見たものが3家系、母系の伯母に妊娠腎を見たものが1家系あつた。(4) 本人にツワリがひどかつたもの3名、同胞にツワリを患つたものが2名ある。又伯母にツワリのひどかつたものが1家系あつた。(5) 兩親が血族結婚のものが1例ある。

之を要するに早剝を起せるもの6例中本人に妊娠中毒症の一種である妊娠腎を経過せるもの4名、ツワリを経過せるもの3名あつたが、それにも増して近親者に腎臓疾患を履歴とせるものが多かつた。即ち腎臓疾患が類簇する傾向があると言えよう。然し例少數の爲深くこれが遺傳的關係を明瞭ならしむる事は出来なかつた。

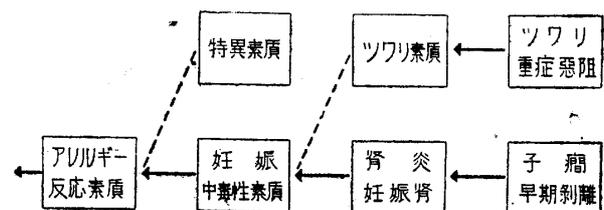
### 議 論

醫術の進歩により早剝の豫後は漸次佳良となれるも尙未だ満足すべき域に到達しては居ない。母體死亡率の如きも Steffens 27% Lavonius 15% 小笠原 14.5%、久慈、高山 9.29%と報じて居る。而

も之が豫防法乃至豫知法に至つては現在の所殆んど不可能に近い。唯本人の腎疾患完全治療に期待する以外に道がない有様である。そもそも早剝例中腎疾患を合併する頻度に就ては外國の諸統計を見るに40~73%の高率にあり。我國に於て小畑氏は106例の患者中87例に於て腎疾患を認め、町田氏は30例中28例に尿中蛋白を證明すと言ふ。

余の例に於て全例に妊娠中毒症(妊娠腎又はツワリ)の既往症を有せし事は妊娠中毒症素質と早剝との關係密接なるを思ふすものであり、又一面家系的には父系伯母3名、母及び母系伯母各1名に慢性腎炎或は妊娠腎を経過せしものが集積、類簇して居る事は興味ある一事實であつて、今後多數例の觀察により早剝素質の遺傳的方則をも發見し得べき可能性を示唆せるものである。

第7例 庄司氏考案の Schema



尙又將來本人の腎疾患のみならず、近親者に於て腎臓疾患を経過せる人を知るならば、初妊の時は子癇、經妊の者は早剝の襲來を特に警戒する要があると言えよう。

### 文 獻

- 1) 藤井：産と婦 10 10(昭17) — 2) 盤瀬、内藤：産と婦 1 6(昭8) — 3) 吉川：産と婦 2 9(昭9) — 4) 久慈、高山：産と婦 2 5 及び 6(昭9) — 5) 町田：産と婦 6 6(昭13) — 6) 佐久間：産と婦 9 4(昭16) — 7) 田北：産と婦 5 8(昭12) — 8) 寺川、中田：産と婦 8 3(昭15) — 9) 庄司：ツワリの體質と遺傳(遺傳第3巻、第12號) — 11) 庄司：子癇素質の遺傳性(産婦人科の世界、昭25)(昭和25.9.12受付)